

☑平成 30 年度 事務事業評価(平成29年度実施事業事後評価)シート / 平成 31 年度 実施計画調書 (新規 拡充 縮小 休止・廃止 現状維持)

1 事務事業の基本情報

☞ 位置付けられている計画等で『その他の計画』が複数ある場合は、代表的なものを1つ記入してください。また、該当する根拠法令及び市条例等が複数ある場合、代表的なものを1~2個記入してください。

事務事業名	市民活動協働推進事業費	補助区分	<input type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県補 <input checked="" type="checkbox"/> 市単	終期	<input type="checkbox"/> 決まっている (平成 年度まで) <input checked="" type="checkbox"/> 決っていない	予算科目	区分	一般会計	款	2	項	1	目	7	事業	1
担当部	市民生活部	担当課	市民協働課	担当係	市民協働 係	作成者	松本 英巳	内線(電話番号)	2110	シート作成日	H30.10.15	部長決裁日	H30.10.15			
位置付けられている計画等	<input checked="" type="checkbox"/> じょうそう未来創生プラン前期基本計画 <input checked="" type="checkbox"/> 市長マニフェスト「常総創生への道しるべ」 <input type="checkbox"/> 常総市復興計画 <input type="checkbox"/> 市民等からの要望 <input type="checkbox"/> 常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略 <input type="checkbox"/> その他の計画 (名称 :)		根拠法令及び市条例等 <input type="checkbox"/> 国の定める法律 (名称 :) <input type="checkbox"/> 国・県からの通達等 (名称 :) <input type="checkbox"/> 市の条令・要綱・規則等 (名称 :)													

2 事務事業の目的

☞ 当該事業を実施することで、①「望ましい状態」とはどのような状態か? → ②一方で、「現状や課題」はどうか? → ③そのためには何をすべきか? という過程で考えていただいても結構です。

現状課題	本市は、市民協働を基本としたまちづくりを進めており、多様な市民協働事業を推進している。市民アンケートの結果によると、まちづくりの推進方法として、「市民と行政が協働して行うべき」と回答した方が75.8%と多い状況にあり、今後は、市民協働の充実を推進するため、人材の育成や確保が課題となっている。	誰・何を対象に 市民(自治会、NPO、企業等を含む)、市職員 どのような方法・手順で 平成29年度は、ファシリテーター養成研修会を受講し、市民協働のまちづくりやファシリテーションについて学び、また、地域の方々との対話の場となる「サロン」を経験することで、サロンを運営できる市民ファシリテーターを育成していく。	望ましい状態 市民ファシリテーターを養成し、「対話の場であるサロン」を開催することで、まちづくりなどの施策における課題解決の一助となることが望ましい。そのためには、まず、研修を通じて「楽しい対話の文化」を市民と共に構築することが必要となってくる。
------	--	---	--

3 事務事業の主たる成果指標

☞ 数値目標(定量)の設定が困難な場合は、文言目標(定性)でも結構です。なお、指標名・目標値とも設定が困難な事業は空欄でも結構ですが、この場合、設定できない理由を分かりやすく・具体的に記入してください。

指標名	ファシリテーター養成講座の参加者数	単位	人	目標値	28	目標年次	平成 30 年度	指標及び目標値設定の考え方(又は指標・目標値を設定できない場合の理由)	協働のまちづくりに必要となる市民ファシリテーターを一人でも多く養成していけるよう、研修会への参加者数を指標として設定した。目標値については、1回あたりの研修参加者の平均人数とし、参加予定人数35名の8割の数値としている。
-----	-------------------	----	---	-----	----	------	----------	-------------------------------------	--

4 事務事業の実績 ㊦

☞ 当該事業の予算を使って、『どのような業務をどの程度実施したか。』を記入してください。なお、業務が12個以上ある場合、代表的なものを最大12個記入してください。

年度	平成27年度			平成28年度			平成29年度								
	業務名	活動量	人	業務名	活動量	人	業務名	活動量	人						
事務事業を構成する主な業務	① 市民協働のまちづくり推進委員会開催	2回		① 市民協働のまちづくり推進委員会開催	2回		① 市民協働のまちづくり推進委員会開催	2回							
	② ブラジル人対応通訳・翻訳業務	通年		② ブラジル人対応通訳・翻訳業務	通年		② ブラジル人対応通訳・翻訳業務	通年							
	③ 市民協働のまちづくり研修会開催	1回		③ 市民協働のまちづくり研修会開催	1回		③ 市民協働のまちづくり研修会開催	1回							
	④ 多文化共生事業(日本語教室)	8回		④ 多文化共生事業(日本語教室)	8回		④ 多文化共生事業(日本語教室)	8回							
	⑤ 多文化共生事業(ポルトガル語教室)	8回		⑤ 多文化共生事業(ポルトガル語教室)	8回		⑤ まちづくりのためのファシリテーター養成研修会	8回							
	⑥ コミュニティ助成事業	1か所		⑥ コミュニティ助成事業	2か所		⑥ コミュニティ助成事業	1か所							
	⑦			⑦			⑦								
	⑧			⑧			⑧								
	⑨			⑨			⑨								
	⑩			⑩			⑩								
	⑪			⑪			⑪								
	⑫			⑫			⑫								
目標値に対する実績値			人	目標値に対する実績値			人	目標値に対する実績値			31	人			
決算額	計	4,726,650 円	内訳	特定財源	2,300,000 円	計	7,018,819 円	内訳	特定財源	4,900,000 円	計	6,759,538 円	内訳	特定財源	2,700,000 円
				一般財源	2,426,650 円				一般財源	2,118,819 円				一般財源	4,059,538 円
		(住民一人あたりの行政コスト)	76.42365 円		(住民一人あたりの行政コスト)	115.42212 円		(住民一人あたりの行政コスト)	112 円						

5 担当者評価 ㊧

☞ 実施したことによる成果や問題点を記入してください。

成果	ほぼ目標どおり 成果内容 平成29年度は、全8回の研修会をおこなったが、受講者数の平均参加人数は、31名であった。参加者全員が、サロンを開催できるスキルを身に付けたとは言いが、サロンを開催できる人材を養成できたことは、今後の市民協働のまちづくりに大きく貢献することになる。
問題点	●市民協働のまちづくりにおけるファシリテーターの重要性について、市民、職員に理解してもらうことが難しく、自主的な参加者が少なかった。また、研修回数が多いことや、研修時間が長いこと、全8回すべてに参加できる方が少なかった。

6 担当部長及び担当課長評価 ㊨

☞ 担当部長・課長で協議のうえ、評価してください。

事務事業の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現行どおり <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
評価理由	市民活動協働推進事業費の中の多様な事業は今後も継続実施する。しかし、2年間実施したファシリテーター養成研修は、休止・廃止とし、今後は様々な会議を、ファシリテーター養成研修を受講した職員を中心に展開実施していく。

7 実施計画 ㊩

☞ 今後3年間の事業内容について、どのようなことを実施していくつもりなのか、具体的に記入してください。なお、予算額の『歳出の計』と『歳入の計』は一致させてください。

年度	平成30年度			平成31年度			平成32年度			
事業内容	市民協働のまちづくり推進委員会開催 ブラジル人対応通訳・翻訳業務 市民協働のまちづくり研修会開催 多文化共生事業(日本語教室、ポルトガル語教室、料理教室) コミュニティ助成事業 まちづくりのためのファシリテーター養成研修会(全6回) 多文化共生のまちづくり推進事業(助成事業)			市民協働のまちづくり推進委員会開催 ブラジル人対応通訳・翻訳業務 市民協働のまちづくり研修会開催 多文化共生事業(日本語教室、ポルトガル語教室、料理教室) コミュニティ助成事業			市民協働のまちづくり推進委員会開催 ブラジル人対応通訳・翻訳業務 市民協働のまちづくり研修会開催 多文化共生事業(日本語教室、ポルトガル語教室、料理教室) コミュニティ助成事業			
	歳出	計	12,340 千円	歳出	計	8,451 千円	歳出	計	8,451 千円	
	予算額		特定財源	7,400 千円		特定財源	5,000 千円		特定財源	5,000 千円
		歳入	一般財源	4,940 千円	歳入	一般財源	3,451 千円	歳入	一般財源	3,451 千円
	計	12,340 千円		計	8,451 千円		計	8,451 千円		

8 財務アドバイザーの見解

『常総市財政健全化計画』では、平成29~31年度までの3年間で約20億円の財源不足が生じる可能性が指摘されている。この厳しい財政状況を鑑み、本事務事業は平成31年度の当初予算の要求において、その実施計画にあるとおり、予算要求を行うべきではない。

9 行政改革懇談会(市民)の意見

担当部長及び担当課長評価のとおりでよい。なお、市民ファシリテーター養成研修会について、午前10時から午後4時までの時間帯では受講したくても都合がつかない市民が多いと思われる。今後も継続するのであれば、午前の部・午後の部に分けて実施すれば、市民の方も参加しやすいと思われるため、検討していただきたい。

10 最終評価(行政改革推進本部) ㊪

事務事業の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現行どおり <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
評価理由	市民協働の町づくりは、今後も継続して推進していく。多様な市民協働事業の1つである、ファシリテーター養成研修は、2年の研修を受講した職員を中心に今後は展開することとし、事業の縮小・廃止を図る。

11 事務事業の改善理由 ㊫

☞ 実施計画のみ作成する場合の拡充・縮小・休止・廃止部分もこの欄に記入してください。

事業内容	2か年の研修会で、ファシリテーションスキルを身に付け、サロン(ワークショップ)を運営できる人材を育成することができた。今後は、市民との対話を重視した「まちづくり」を推進していくため、研修会の受講生が中心になり、ファシリテーションを活かしたサロン(ワークショップ)を開催し、市内及び庁内への定着に向け努めていく。
------	---